

# 「シーニックカフェちゅうるい」の取り組みについて —「南十勝夢街道」の地域連携活動—

ボランティアしらかばの会 ○武内悠紀夫  
南十勝夢街道運営代表者会議 加藤 修治  
帯広開発建設部 道路計画課 田宮 敬士

十勝管内では3つのシーニックバイウエイルートが独自性を保ちながら連携し、十勝ブランドを強力に発信している。その中の1つ「南十勝夢街道」は、「シーニックカフェちゅうるい」の活動を継続している。雄大な日高山脈と十勝平野を眺める小高い牧場（幕別町忠類地区）で、ボランティアメンバーがコーヒーや音楽演奏等で訪れる人をもてなす活動である。この場所は訪れる人の満足度が非常に高く、十勝の風景を代表する箇所となっている。本稿では、活動の取り組み方と継続性のポイントを報告する。

キーワード：シーニックバイウエイ、シーニックカフェ、ボランティア、継続性

## 1. はじめに

### (1) シーニックバイウエイの概要

シーニックバイウエイ (Scenic Byway) とは、景観・シーン (Scene) の形容詞シーニック (Scenic) と、わき道・より道を意味するバイウエイ (Byway) を組み合わせた言葉である（以下、S B W）。アメリカで取り組まれている制度を参考に、平成 17 年度より全国に先駆けて「S B W北海道」<sup>1)</sup>として本格的にスタートした。

“みち”をきっかけに、地域住民が主役となり、行政や企業等と連携しながら、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら个性的地域、美しい環境づくりを目指す施策を言う。

北海道開発局では、平成 22 年度末現在、全道で 9 つの指定ルートと、3 つの候補ルート（ルート指定の準備段階）を選定し、S B W の取組を促進している。ここで言う“ルート”とは、道路を含む地域を表す。

また、十勝管内には、2 つの指定ルート「十勝平野・山麓ルート」、「トカプチ雄大空間」および 1 つの候補ルート「南十勝夢街道」がある。それぞれのルートは、独自性を保ちながら連携し、全体として十勝ブランドを強力に発信していくため、「十勝 S B W」として様々な活動を行っている。図-1 に S B W 北海道範囲図を示す。

### (2) 南十勝夢街道のルート概要

ルート内の自治体や道路は、十勝南部に位置する中札内村、更別村、幕別町忠類地区、大樹町、広尾町の 3 町 2 村を含む、国道 236 号、336 号および周辺の道道、町道である。

ルート内の自然環境は、南十勝のどこからでもその雄大な姿を望むことが出来る日高山脈をシンボルに、そこから流れ出る幾つもの清流、豊かな森林と農村風景、太平洋へと続く。具体的には、日高山脈の森林と美術文化（中札内村）、広大な農村風景とサーキット文化（更別村）、世界的にも顕著なナウマン象全身骨格化石文化（幕別町忠類地区）、歴舟川の砂金掘りや航空宇宙実験施設（大樹町）、ノルウエーから国内唯一認定されたサンタランド施設（広尾町）など、太古から現代、そして未来までを想像させるロマンを持つ。

南十勝夢街道（地域の民間等 38 団体で構成）は、この素晴らしい環境を大切に、歴史と文化を活かしながら地域活性化を目指している。そして、地域の子供たちに夢を与え、その子供たちが大人になってからも住み続けたい・守り続けたいと思えるような地域づくりを目標としている。

以下 a)~d) に、主な活動内容を記す。

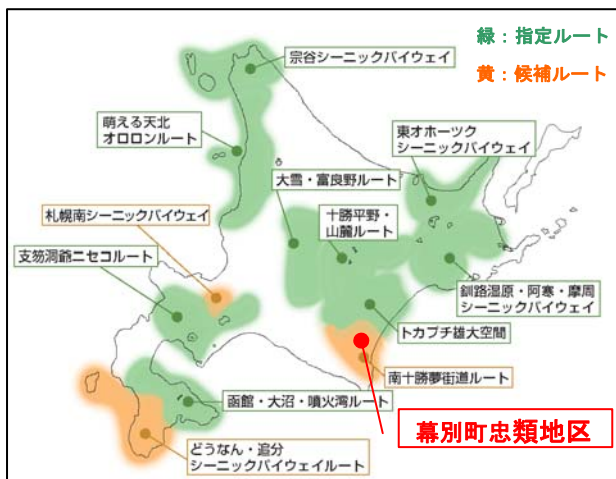


図-1 S B W北海道範囲図

本稿では、このうち d)の活動における取り組み方と継続性のポイントを報告するものである。

**a) 環境整備**

地域住民と共にきれいな街を目指し、活動団体を中心とした花植活動、清掃活動を実施。

**b) フォトコンテスト**

訪れる機会を作るため、フォトコンテストを実施し入賞作品をメインにカレンダーを制作販売。

**c) 学校S B W**

学校授業の中で、子供たちによる“たんけん夢マップ”作成を支援し、地域の内外にPR。地域を愛する気持ち、訪れる人を思う気持ちを育む。

**d) シーニックカフェ**

景観の美しい場所にシーニックカフェ（以下カフェ）を開き、ボランティアメンバーが、訪れる人に無料の飲み物、エリア情報、癒しの空間を提供。

## 2. シーニックカフェちゅうるいの概要

**(1) 概要**

シーニックカフェちゅうるいとは、雄大な日高山脈、十勝平野等を一望出来る忠類地区の小高い丘において、地域ボランティアメンバーがコーヒーや音楽演奏等で訪れる人をもてなす活動である。写真-1にカフェから眺める景観、写真-2にカフェの全景を示す。



写真-1 カフェから眺める景観



写真-2 カフェの全景

**a) 活動メンバー**

南十勝夢街道のボランティアメンバー約10人。

**b) 活動期間**

7月～9月（3ヶ月間）の土日・約24回/年。

Yukio Takeuchi, Syuuji Katou, Keiji Tamiya

**c) 活動場所**

幕別町忠類地区共栄牧場（約40坪の町敷地内）

**d) 活動内容**

訪れる人をもてなし、癒しの空間等を提供する。

**e) 活動手段**

1基の東屋と、その周辺に敷き詰めたウッドデッキに、5基の parasol付きチェアを設置し、無料のコーヒーや様々な企画によりもてなす。

**f) 活動理由**

幕別町忠類地区をはじめとした南十勝地域をPRすることで交流人口を増やし、地域活性化に役立てるため。

**(2) 活動経緯**

表-1にカフェの活動経緯を示す。平成18年2月、幕別町が忠類村を編入合併したことにより、忠類地区住民は、地域活性化の低下を危惧した。また、忠類地区の重要集客施設である“道の駅・忠類”の入込数は減少傾向にあることも認識していた。

そこで、我々は、この道の駅を活性化させ、交流人口を増やすことが最重要課題であると考えた。そのためには、官民一体となって地域活性化の促進が重要と考え、平成18年5月に北海道開発局のS B W制度に登録し、候補ルートとして活動を始めることとした。

平成22年度の口蹄疫に起因した、当該地区での活動中止を除くと、平成18年度オープン以降、入場者数も増加傾向となっている。

表-1 カフェの活動経緯

年度	概要	カフェ入込数
H18	・カフェオープン ・アルプホルン体験 ・新聞等による紹介多数	2,278人
H19	・アンケートの本格実施 ・チェア等要求（太陽財団） ・テーブルチェア、parasol、ウッドデッキ、防風設備設置（太陽財団）	5,153人
H20	・電気設備の設置要求（町） ・限定企画（コンサート2団体）	3,467人
H21	・電気設備の設置（町） ・歩道舗装化（企業） ・駐車場拡大化（町） ・限定企画の充実（コンサート4団体、糸紡ぎ体験）	4,263人
H22	・口蹄疫により中止（道の駅内で実施） ・来年度開催の要望多数	1,183人 (参考値)

## 3. カフェちゅうるいの課題・対策とその結果

**(1) 課題**

平成18年度、手探りで始めたボランティアメ

メンバーは、訪れる人の満足度をあげるため、平成19年度より、アンケートを本格的に実施した。これにより以下の課題が抽出された<sup>2)</sup>。

**a) カフェ設備**

写真-3に、オープン当時のカフェ状況を示す。吹きさらし状態の東屋と、その周辺は砂利の凹凸や粉塵が著しい状態であった。また、メンバーが持ち寄った、色・形がバラバラのわずかなベンチがあるのみであった。そのため、訪れる人が安心してくつろぐ事ができるカフェ設備の充実が望まれていた（H18アンケートより）。



写真-3 オープン当時のカフェ

**b) おもてなし**

チェアに座ってくつろぐだけではなく、地域の活動やアトラクション等を体験する機会が望まれていた（H19アンケートより）。

**c) 移動施設**

駐車場が狭く、また駐車場からカフェ迄の登り歩道（約100m）は砂利道であったため、特に車椅子の方から、歩道舗装化及び駐車場の拡大化による移動施設の充実が望まれていた（H20アンケートより）。

**d) 電気供給設備**

電気供給設備が無いため、訪れる人をもてなすBGMプレイヤー、電気給湯ポットの電源は、メンバー持参の発動発電機としていた。しかし、この発電機音やガソリン臭が不快であり、供給設備の充実が望まれていた（H19アンケートより）。

**(2) 対策**

上述課題を解決するために、行政、財団、民間企業等の協力を受けながら下記対策を行った。

**a) カフェ設備の充実**

色・形に統一感を持たせたチェアとパラソルの新設、東屋内外の快適性を目的とした防風設備やウッドデッキ（木製床パネル）が必要と考えたが、費用捻出（約150万円）の課題があった。

そこで、太陽北海道地域づくり財団補助事業金を活用することとした。事業主からは、目的や効果について幾度の質問を受けたが、S B W制度の主旨

を説明し、有識者の後押しも受けながら、申請許可を得た。写真-4に、チェア・パラソル、ウッドデッキ等で設備が充実したカフェの状況を示す。



写真-4 充実したカフェ

**b) おもてなしの充実**

オープン当時から行っていたアルプホルン体験をはじめとし、音楽活動メンバーやコーラス隊によるコンサート開催、羊の糸紡ぎ体験等、週替わりの限定企画で訪れる人をもてなした。写真-5にアルプホルン体験、写真-6に糸紡ぎ体験、写真-7にコンサート開催の状況を示す。



写真-5 アルプホルン体験



写真-6 糸紡ぎ体験



写真-7 コンサート開催

また、普段のもてなしにおいても、こだわりの

コーヒー（厳選豆をその日使う分だけ挽く）、地元牛乳の提供、食材提供（家庭で作ったクッキー、熱々の揚げイモや茹で玉子）、写真撮影や郵送協力、牛の放牧演出、防寒着提供（ひざ掛け）を出来る範囲の中で自らも楽しみながら行った。

なお、相手の緊張を解きほぐすための言葉は、「いらっしゃいませ」はもちろんのこと、「どこから来られましたか」も重要となることに気付いた。

さらに、接客基本姿勢は、過度な接客を行わず、つかず離れずのスマートさが重要となることを認識した。しかし、相手がコミュニケーションを欲している表情や雰囲気を見逃さない事を心掛けた。

### c) 移動施設の充実

歩道舗装化費用（約 50 万円）捻出の課題があったが、新聞やテレビ等で報道された活動の熱意を見た舗装工事会社（更別村）から、舗装化のボランティア協力を得た。また、駐車場の拡大化費用については行政（幕別町）から、活動の熱意はもちろんのこと、常日頃からカフェ内のゴミを清掃している基本姿勢が認められ、施工協力を得た。写真－8 に歩道舗装化、駐車場拡大化の状況を示す。



写真－8 充実した移動施設

### d) 電気供給設備の充実

電気供給設備費用（約 90 万円）捻出の課題があったが、通常の電柱架空配線式による電気供給方法（約 30 万円）では景観を阻害することにつながるため、地下配線方式を強く熱望した。SBWの主旨を理解してもらい、行政（幕別町）からの協力を得た。

### (3) 対策の結果

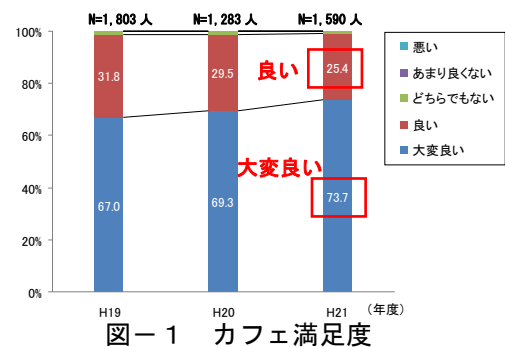
上記対策が寄与したと推測される結果を、以下に示す。

#### a) カフェ満足度

図－1 に、カフェ満足度を示す。毎年、訪れる人のほとんど（約 99%）が、大変良い”か“良い”と回答しており、カフェの高い満足度を得ている。その中でも満足度“大変良い”の占める割合も高く（約 7割）、年々増加していることから、対策（もてなし）による効果が推測される。また、自由

意見の一部を紹介する。

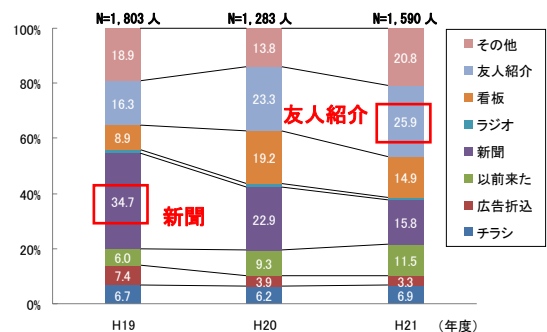
- ①【H21.7.5 広尾町・20 代女性】こんな素敵な場所があるなんて知りませんでした。美味しいコーヒーを飲みながらのんびりできました。知り合いに教えてあげたいと思います。スタッフの皆さんも気さくで心地良く過ごせました。
- ②【H21.8.8 帯広市・60 代女性】つかずはなれず、接客の仕方は最高ですね。
- ③【H21.8.15 幕別町・50 代女性】来た時、挨拶されて、親近感があり、とても良かった。スーっとこの場所に入れた。風もこちち良い。
- ④【H21.9.23 帯広市・30 代女性】大変素敵な景色でしたし、スタッフの方が親切で温かい気持ちになりました。ボランティアで運営されているのは、素晴らしいですが、長く永く、この景色をアピールする為には観光産業として営む方法も必要だと思います（資金の面で）。もっと沢山の方に十勝の素晴らしさを知っていただきたいです。



図－1 カフェ満足度

#### b) カフェ来訪のきっかけ

図－2 に、カフェ来訪のきっかけを示す。H21年度のきっかけ1位は“友人からの紹介”であり、H19年度のきっかけ1位だった“新聞”を超えている。カフェの高い満足度が、口コミで広がっていることと推測される。



図－2 カフェ来訪のきっかけ

また、自由意見の一部を紹介する。

- ①【H21.7.12 帯広市・30 代女性】こういう場所があるなんて知らなかったです。友達に教

えてあげようと思います。景色が良くて癒や  
されました。

- ②【H21.8.15 東京都・30代女性】素敵な場所で  
カフェ。沢山のの人に伝えたいです。
- ③【H21.9.21 帯広市・50代女性】素晴らしかった。  
また来たい。友達と一緒に。

### c) カフェ来訪者の居住地

図-3に、カフェ来訪者の居住地を示す。十勝管外（道内及び道外）の割合が年々高くなっている。カフェのPRは主に十勝管内であったため、十勝管外の来訪者が戻った際、カフェの良さを友人に紹介していることと推測される。また、自由意見の一部を紹介する。

- ①【H21.8.15 愛知県・30代女性】景色がとても  
きれいで、こんな所でゆっくりティータイム  
が出来てうれしい。スタッフの方が優しく元  
気をもらいました。
- ②【H21.8.22 神奈川県・20代男性】牛乳ウマ  
すぎです。本当に思い出ができました。
- ③【H21.9.19 岐阜県・50代女性】何もかもが  
初めてで感激です。また、子供がお世話にな  
り、ありがとうございます。今度、北海道へ  
来た時もお伺いしたいと思います。

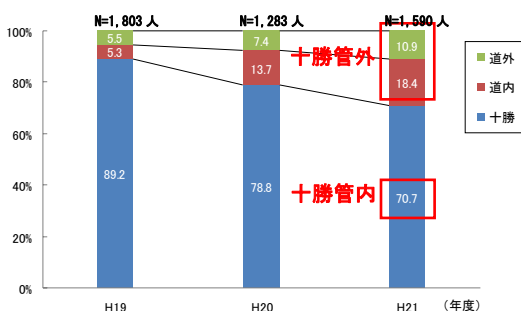


図-3 カフェ来訪者の居住地

### d) カフェの良かった点

図-4に、カフェの良かった点を示す。“ドリンクサービス”が1位となっているため、このもてなしは重要と再認識した。徹底してこだわったコーヒーを絶賛する声も多かった。どの項目も目立った増減はないが、H21に充実化された限定企画（コンサートや糸紡ぎ体験等）が効果に反映していると推測される。また、自由意見の一部を紹介する。

- ①【H21.7.12帯広市・40代男性】十勝平野をド  
リンクを飲みながら、ゆったりとした気分にな  
ることができました。景色だけだと子供が  
飽きてしまったと思うのですが、アルプホル  
ンを楽しませていただいたので、ゆっくり過  
ごすことができました。
- ②【H21.9.19 幕別町・40代男性】コーヒーは

飲めると聞いていましたが、お菓子にゆで玉  
子にはビックリ！美味しかったです。

- ③【H21.9.19 函館市・50代女性】こんな良い  
天気には素晴らしい景色をバックにステキな演  
奏を聞けてとても幸せです。神様ありがとう。

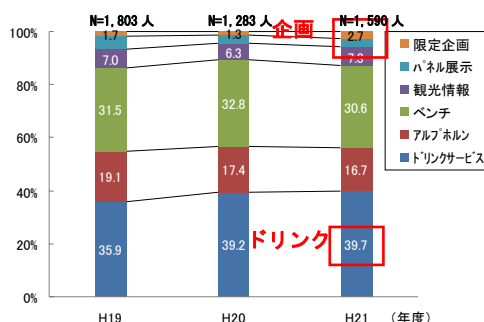


図-4 カフェの良かった点

### e) カフェの波及効果

図-5に、カフェと道の駅の入込み数を示す。H16年度以降、道の駅の入込み数は減少していたが、H18年度のリニューアルを機に、また、カフェオープンとともに、道の駅入込み数<sup>3)</sup>も増加傾向を示す。カフェが道の駅や商店の紹介を積極的に行っていることから、それが道の駅活性化の一要因と推測される。さらに、地域の商店からも、カフェが商店の売り上げ増の一要因になったと感謝された。また、自由意見の一部を紹介する。

- ①【H21.9.21 岐阜県・30代女性】雰囲気は良く  
のんびりできました。忠類出身者として、事  
業の益々の発展をお祈りしております。もっ  
と地元が好きになれる活動が私達の時にあつ  
たら、地元から離れることはなかったように  
思います。

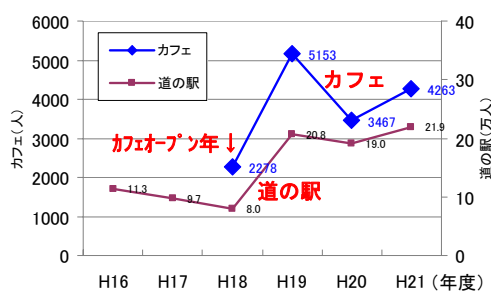


図-5 カフェと道の駅の入込み数

## 4. おわりに

以下に、アンケート結果を元に得られた、カフ  
ェ活動における取り組み方と継続性のポイント及び  
今後の課題・展開をまとめる。

### (1) 取り組み方のポイント

- a) アンケートを実施すること

アンケートを実施し、訪れる人のニーズ把握は重要である。その方法は、用紙を置いて自由に書かせるだけではなく、コミュニケーションの一環として対話形式により回答を引き出すことも良い。これにより、アンケート回収率が高まり（H21年度の回収率約37%）、多くのニーズを把握できる。また、このアンケート実施結果表が活動のPRにつながり、行政等からの資金支援にもつながる。

**b) 相手を意識したもてなしを行うこと**

体験メニューを付随させることは、訪れる人を飽きさせることなく満足度も向上する。また普段のもてなしにおいても、ドリンクサービスの期待度が高いため、こだわりのあるドリンクを提供することは有益となる。さらに「どこから来られましたか」等の相手の緊張を解きほぐす声かけ、過度な接客を行わず、つかず離れずのスマートさは重要となる。

**c) 地域情報の発信拠点となること**

地域情報を発信するアンテナショップとなることは重要となる。これにより、地域の施設や商店の入込み数が増え、カフェ活動を応援・支援してくれる住民や行政が増える。

**d) 清掃を徹底すること**

常日頃からのカフェ内清掃は重要となる。まずは、目にとまるゴミから清掃すれば良い。この基本姿勢が、訪れる人や行政の目にとまり、カフェの好感度が向上する。

(2) 継続性のポイント

**a) 自らが楽しむこと**

訪れる人がいなくても、メンバー同士が楽しんでいられる場所とすることは重要である。カフェが地域住民のコミュニケーションの場であっても良いので、自らが楽しむことが継続性につながる。

**b) 自らのメリットを見つけること**

自らの仕事や活動の商品、成果品等を、カフェで展示し、販売先や連絡先を発信することは重要となる。また、音楽活動の練習場としても活用できる。それが利益や技術の向上になり、継続性につながる。

(3) 今後の課題・展開

**a) 上下水道を整備すること**

軽食等の提供やトイレ設置が望まれているため（H21アンケートより）、上下水道設備の充実性を図ること。この整備により、保健所からの飲食店営業許可を得ることができ、軽食等の提供が可能となり、もてなしが一層充実する。

**b) カフェちゅうるいをNPO法人化にすること**

飲食店営業許可を得たのち、行政と連携した公共性を主眼に置き、NPO法人化させること。これにより、地域雇用が促進され、地域の活性化につな

がると考える。

**c) カフェ箇所を増やすこと**

カフェちゅうるいだけでなく、南十勝夢街道内における他の箇所で少しずつカフェを増やし、地域活性化の向上を行うこと。

**d) S B Wの認知度を向上させること**

H21年度アンケート回答者数の約46%の方は、S B Wを知らないと回答しているため、学校S B W等の活動とあわせ、わかりやすい説明に留意すること。これにより、S B W活動全体、そしてカフェ活動への理解度が一層高まることになる。

最後に、カフェ活動を含めたS B W活動を取り組む上での見解を述べる。S B W活動を息の長い活動とするため、決して背伸びをしないことが重要と考える。地域にジワジワと浸透して、10年後に「この活動をやって良かった」と言われれば良いと思う。また、カフェから眺める農村風景を見ることは当然無料であるが、この農村風景を築いた十勝の開拓者に敬意を払い“風景を拝借し活動させて頂いております”といった神聖な気持ちを持ち続けている。私は、平成12年、本州から忠類地区に移住をした。この地に移住した理由は、環境の素晴らしさはもちろんのこと、初めて訪れた際に接した、住民の表情・笑顔に感動したためである。私は、カフェを訪れる本州の人から、北海道への移住相談を受けることが多い。その際、彼らに自らの経験談を伝えるとともに、冬の我が家に招き、宿泊体験をさせる。彼らの一番大きな不安、“北海道の冬”を解消させるために。

以上、S B W活動を取り組む上での結論は3つ。相手を思う気持ちを大切にすること、祖先から受け継ぐ風景に感謝すること、背伸びをしないこと。この気持ちを忘れず、今後も南十勝夢街道の地域連携活動を続けたい。

**謝辞：**シーニックカフェちゅうるいを運営するにあたり、この素晴らしい風景を作り出した十勝開拓者に敬意を払い、活動ボランティアメンバー及びアンケートにご協力いただいた多くの訪れた方々に対し、ここに記して謝意を表します。

**参考文献**

- 1) シーニックバイウェイ北海道 “みち”からはじまる地域自立（シーニックバイウェイ支援センター平成18年8月）
- 2) シーニックカフェちゅうるいアンケート集計報告書（南十勝夢街道忠類地域部会）
- 3) 道の駅忠類入込み数集計書（幕別町忠類総合支所経済建設課商工観光課）